

科目名	幼児と健康		担当教員	小栗 和雄	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1CSR101
期待される学修成果	教科教育 態度				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校での現場経験を活かし、受講者が幼児教育の基礎を身につけ、卒業後の実践指導にも役立つよう講義・演習を行う。				
到達目標及びテーマ	乳幼児期の健康な心と体を育てるとともに、いずれは子ども自身が自ら表現豊かで健康かつ安全な生活を作り出す力を持つように援助する為の基礎的な保育について学ぶことができる。				
授業の概要	演習と講義を通じて、子供の発達段階に応じたいろいろな運動遊びを工夫して実践できるようにする。また、将来のために、幼児期においても休養、栄養、運動における望ましい生活習慣の形成が大切であることを講義を通じて理解する。				

授業計画	
第1回	幼児にとっての健康と体力
第2回	幼児の健康と体力を取り巻く諸問題
第3回	幼児の生活を取り巻く諸問題
第4回	幼児の心身に及ぼす運動の効果
第5回	幼児の発育発達と運動
第6回	幼児を対象とした運動指導の留意点
第7回	健全な発育発達の測定
第8回	健全な発育発達の評価
第9回	安全管理と安全教育
第10回	運動遊び1 ～心を通わせる動き～
第11回	運動遊び2 ～その場で何も使わない動き～
第12回	運動遊び3 ～走・跳・投の動き～
第13回	運動遊び4 ～伝承した動き～
第14回	運動遊び5 ～マット・跳び箱・鉄棒・遊具を使う動き～
第15回	運動遊び6 ～手軽な道具を使う動き～

事前学修		課題にあわせ事前に指示した課題学習をする。
事後学修		毎回指示した課題以外においても、日頃より積極的に子どもにかかわる機会を見つけ、子どもの発達段階を理解するとともに幼児の健康の在り方について学修する。
フィードバックの方法		複数回の小レポートや演習に対し、適宜、助言や講評を行う。

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	なし
レポート	40%	40点の期末レポートを課す。
上記以外の試験・平常点評価	60%	合計点が60点となるように複数回の小レポートと演習を課す。
補足事項	本授業は、保育専修の受講を原則として開講します。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
毎回の授業で、担当教員がプリントを配布する。	なし	なし	なし	なし
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・春日晃章ほか（2015）保育内容 健康、第2版、㈱みらい ・小栗和雄ほか（2014）運動が体と心の働きを高めるスポーツ保育ガイドブック、静岡新聞社 ・厚生労働省（2017）保育所保育指針 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）幼保連携型認定こども園教育保育要領 			